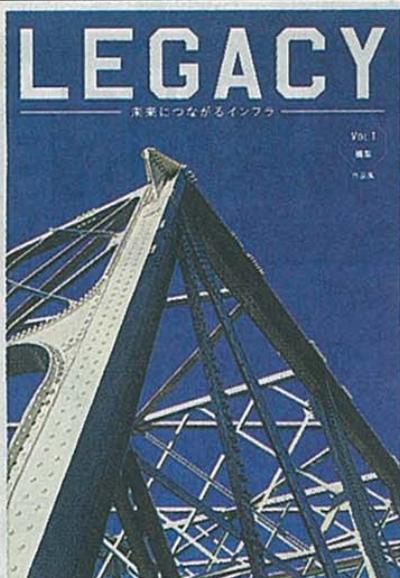


【オリコンサルが発刊 作品への情熱とやりがい見える化「LEGACY—未来につながるインフラ—」】

作品への情熱とやりがい見える化



オリコンサルが発刊

オリエンタルコンサル
タンスは、同社が計画・
設計したインフラ施設を
掲載した作品集「LEGACY—
未来につながるインフラ—」を
発行した。初回は「橋梁」を
テーマに、近年完成した代
表的な橋梁をピックアップ
アップ、2013年度土木学
会田中賞を受賞した

「霞橋」や、同学会の「ブリッジコンテスト」で受賞した作品などを掲載している。野崎秀則社長は「自分たちの仕事を再確認し、新しい仲間を含めてみんなで共有できれば良いと思っている」と話している。

作品集は、同社が実践している「情熱とやりがい

「LEGACY—未来につながるインフラ—」

いプロジェクト」の一環として発行した。同プロジェクトでは8つの経営施策を掲げており、このうち「情熱とやりがい見える化」として、同社が計画・設計した「施設・技術」に着目した。

計画・設計した施設や、どこに導入・活用された技術を社員同士が情報共有することに加え、社員の家族に対してもインフラ価値や仕事の意義を伝えることを目的に作成した。冊子を通じて学生に情報発信し、建設コンサルタントの仕事を理解してもらおう狙いもある。

作品集は、「(東北地

方)復興を支える橋」「海上の橋」「橋の再生・再利用」「橋梁技術者の活動」「オリエンタルコンサルタントの橋梁史」で構成。それぞれの橋梁について、諸元や同社の役割、プロジェクトメンバー、橋梁の説明などを記載している。

発行部数は5000部。A4版で50ページ。今後は、交通、トンネル、河川など、その他の分野でも作成を検討しており、1年に1冊を目安に発行を継続する。3年後の創業60周年をターゲットに、社会インフラに対する同社の培った技術や情熱を振り返るとともに、未来につなげていきたいとしている。